

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	いるか					公表日 令和 8 年 1 月 19 日
	チェック項目	(はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7				
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	送迎などで職員が少ない時には活動や場所を分けて過ごしたり、子どもたちへの負担がかからないよう工夫している。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		支援終了後には消毒や清掃を行い、月1回の施設点検にて危険な箇所の修繕を行い、安心安全に過ごせる環境作りを心がけている。	個別の部屋がない為、時間や空間をうまく利用して集中できる環境を作っていく。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別の部屋はないが、時間や人数を調整しながら自由に玩具で遊べるスペースや時間を作っている。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		週に1回職員ミーティング、月1回関連事業所との合同ミーティングを開き、業務の目標や改善点などを話し合っている。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者からの意見に対して、職員全員に周知し、改善できる部分について話し合った。	意見を真摯に受け止め、改善できる部分や保護者との着地点を見つけていきたい。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		週に1回職員ミーティングで業務改善を図る為の意見交換などを行っている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7				
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		たじかの園や三田谷治療院が開催する研修、講習に職員全員が参加している。また月1回の所内研修も行っている。	研修の内容を支援に繋げられるよう工夫をしていきたい。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		いるかのHPにて記載している。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		保護者のアセスメントをもとにしながら、今の子どもの状態や課題に合わせて計画を作成している。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		カンファレンスにて計画案をもとに計画を立てたり、計画作成後にも目標の確認を行い、共有している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画についていつでも職員が確認できるよう準備しており、計画に沿った支援を行えるよう、支援の進捗などを職員間で情報共有している。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		会議の中でプログラムの提案を行い、職員全員がプログラムの内容を把握できるようにしている。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		毎月季節や行事に応じたプログラムを考案し、固定化していいものとそうでないものとで工夫してスケジュールを組んでいる。		
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個々に応じた支援を行えるよう、計画に沿った支援を職員それぞれが考え、工夫して行っている。		

	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		当日の出来事や子どもの様子、保護者からの相談について全職員共有できるよう話し合いを行っている。	
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		連絡帳にて記録している他、個別記録として月ごとの個々の変化や支援に対しての反応などを記録している。	
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		最低6ヶ月に1回はモニタリングを行い、支援の見直しをしている。	
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		保育園や幼稚園等の関係機関と連携し、支援の方法について情報共有を行い、より良い支援に繋げている。	
	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		並行利用の方が多い為、保育園や幼稚園に様子を見に行かせて頂いたり、担任や主任の先生とお話しする機会を頂いて、情報共有や相互理解を図っている。	
	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	3	保護者の希望があったり、小学校側からの希望があれば情報を共有し、相互理解を図っている。	
関係機関や保護者との連携	(28~30は、センターのみ回答)				
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			児童発達支援センターで行われている研修や講習に参加し、支援の方法を参考にさせて頂いたり、施設支援指導という形でアドバイスや助言を頂き、支援の幅を広げている。	
	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		地域の保育園と公園などで交流を図っている。	
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		送迎の際や連絡帳にて子どもの日々の状況や様子などは詳しくお伝えしている。	
	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		他事業所や市などで開催されているプログラムや研修のご案内を配布し、情報提供を行っている。	
	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に重要事項説明書をもとに説明を行っている。	
	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		言葉が話せない児も多い為、意思の尊重を図れるよう、児発管の見解だけではなく、普段関わっている家族や指導員、園の先生などの意見を聞きながら計画の作成を行うようにしている。	
	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		計画を作成したら、保護者に詳しい支援の内容や目標について今の子どもの状態とともにお伝えするようにし、同意を得ている。	
	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者からご相談がある場合には、必要に応じて面談の設定をし、ご相談に対する助言などを行っている。	

説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		不定期で保護者会を開催し、保護者同士の交流の場や兄弟同士での交流の場を設けている。	定期的に時間を設けられるようにし、保護者様同士、兄弟同士の交流が図れるようしていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		相談の申し入れがあった場合には日程を調整し、相談に対して迅速に対応をするよう心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月のお便りの他、ブログや公式ラインなどを通して活動の内容や行事の予定などについて情報発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報については鍵付き書庫にて保管し、名前のついた物や個人が特定される物に関しては所外には持ち出さないよう留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		漢字が苦手な保護者の方には連絡帳をひらがなにして記入したり、耳の不自由な保護者の方には筆談にて伝達等を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		招待したことではないが、地域と交流できる機会を年に数回設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		事業所内にてマニュアルは策定しており、職員が周知している。また、訓練の実施報告なども適宜行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		月1回施設や車の点検を行い、必要に応じて修理を行い、安全に配慮して支援を行えるよう努めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		所内研修とともに定期的にヒヤリハットの内容や状況を職員で共有し、再発防止の策を講じている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止、身体拘束防止の委員会を設置し、年に1回職員研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束については契約時に重要事項説明書をもとに説明を行い、同意を得ている。	